

キコニアレター

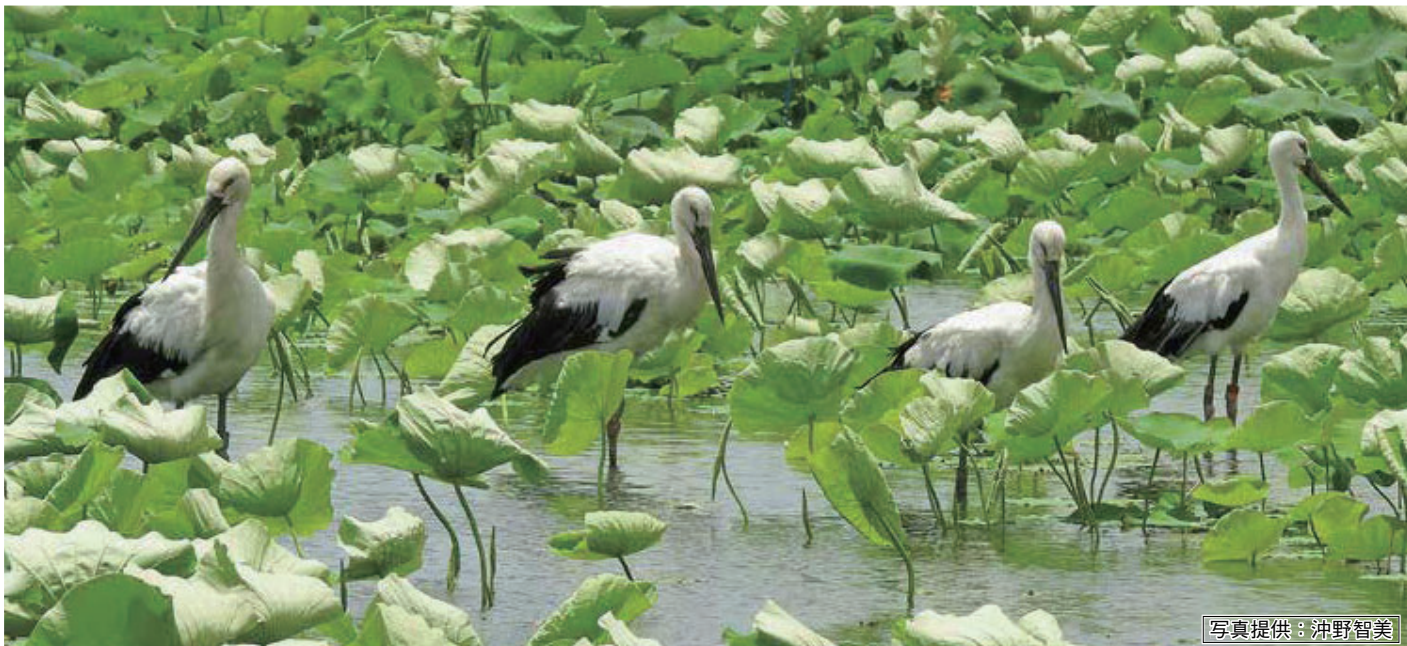
2021.3.25 発行 No.26



「コウノトリが舞う笑顔輝く未来に」



NPO法人 とくしまコウノトリ基金
SHIBAORI Fumiaki
理事 柴折 史昭



写真提供：沖野智美

特定非営利活動法人とくしまコウノトリ基金（以下、とくしまコウノトリ基金）は、2019年秋から活動を始めたばかりの団体です。

2015年発足のコウノトリ定着推進連絡協議会（コウノトリの郷公園の佐川志朗統括研究部長にアドバイザーに就任して頂いている）の実働部隊という位置づけです。

2021年1月末現在の会員数は187（うち企業・団体88）、会費と各種助成金等を財源とし、少人数のボランティアスタッフで運営している小さな団体ですが、顧問になって頂いているコウノトリの郷公園の江崎保男園長にご指導を仰ぎつつ、次のような活動をしています。

【野生復帰の取組】

鳴門市を中心としたレンコン栽培地帯はコウノトリの餌場として適していますが、夏はレンコンの茎葉が繁茂して利用できなくなります。繁殖ペアを増やすためには夏の餌場を確保する必要があると考え、耕作放棄地を再生し餌場として周年利用できるビオトープ作りに力を入れています。現在は1ha程度ですが、今年中に2倍から3倍に増やす計画です。

ヒナへの足環装着は、初めて繁殖に成功した2017年から2019年までコウノトリの郷公園の職員さんに全面的に頼って

いましたが、2020年は初めて県内のメンバーだけで実施しました。当基金はこのプロジェクト遂行に必要な業務を県から受託しています。

【地域活性化の取組】

徳島県のコウノトリを育てているレンコンや水稻などの農業生産の維持発展のため、農業団体や行政とともに「コウノトリれんこん」やその関連商品のブランド化を進めています。また、地元の酒蔵と連携し「ビオトープ米でお酒を造るプロジェクト」により「コウノトリのお酒 朝と夕」を今年1月に発売しました。

このほか、地域の環境や文化を生かしたエコツアー商品の企画、支援のほか、環境学習や啓発イベントなどを行っています。

「鳴門板東ペア」は昨年まで4年連続で繁殖に成功し11羽を巣立たせ、着実に成果をあげてきています。一方、私たちの取組は、いずれも緒についたばかりで、成果を見るのはずっと先のことも知れません。

しかし、今できることに精一杯取り組み、将来は徳島県をコウノトリ野生復帰の拠点となし、コウノトリとの共生によってより明るく元気な地域にすることを目指しています。

コウノトリの個体数 (2021.3.1時点)

飼育

施設・拠点名	オス	メス	不明	計
兵庫県立コウノトリの郷公園	29	31	0	60
附属飼育施設コウノトリ保護増殖センター	18	17	0	35
養父市伊佐拠点	0	0	0	0
朝来市三保拠点	0	0	0	0
計	47	48	0	95

野外

カテゴリー	オス	メス	不明	計
兵庫県放鳥	18	15	0	33
兵庫県野外巣立ち	51	70	0	121
野生個体	0	1	0	1
他府県放鳥	12	5	0	17
他府県野外巣立ち等	18	26	3	47
計	99	117	3	219

アンダーコロナでの山陰海岸ジオパーク「みんなの発表会」



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 教授
兵庫県立コウノトリの郷公園
ジオ研究部 研究部長
KAWAMURA Norihito
川村 教一



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 講師
兵庫県立コウノトリの郷公園
ジオ研究部 研究員
MATSUBARA Noritaka
松原 典孝



兵庫県立大学大学院
地域資源マネジメント研究科 助教
兵庫県立コウノトリの郷公園
ジオ研究部 研究員
SANO Kyohei
佐野 恭平

第4回となる今年の発表会はコロナ禍での開催、参加者の密を避けるためにビデオ会議システム（Zoom）を用いて実施しました。発表内容は、高校生による神社境内にみられる玄武岩の研究、海ごみを多くの人の協力で清掃する工夫の話、ノーマイカー生活など持続可能な暮らしの紹介、ジオカヌーや海上タクシーなど海のジオツーリズムの展開、舞鶴の山中に転がっている空き瓶から見る日本の近代史など、実に多岐にわたりました。発表件数は、口頭発表16件、ポスター2件、大学院生によるポスター発表13件でした。当日は、北は秋田県から南は鹿児島県まで、東北・関東・近畿・中国・四国・九州と、全国から101名もの方々に参加いただきました。

本発表会は、地域に密着した活動について情報共有ができる場を山陰海岸ジオパークにも欲しい！という思いから、「共生のひろば」（兵庫県立人と自然の博物館主催）に着想を得たものです。2018年に開催された第1回発表会では、会場の豊岡市稽古堂に約80名の来場者がありました。この発表会設立の経緯を述べた先山徹博士のブログを参考にまとめますと、主に次の4点がねらいです。

- 1 山陰海岸ジオパークに興味ある人たちが集える場の確保
- 2 ジオパークで活動する人たちの気軽な発表の場の提供
- 3 ジオパーク運営に関心を持つ人の後押し
- 4 他地域にも開かれた山陰海岸ジオパーク活動の展開

公開会場で実施した昨年度までの発表会は、但馬地方内外の方々が来場され、発表の内容もきわめて自由で楽しめる雰囲気でした。しかし社会状況は今年度激変。本発表会は公開会場での実施ではなく、オンライン開催となりました。

先山博士のブログには、広く各地から山陰海岸ジオパークに集まる、開かれた発表会にしたいというものがありません。残念なのは対面による交流活動ができないことですが、オンラインでつながるジオパーク関係者、関心を持つ方々同士の新たな交流活動を展開していきたい、ジオ研究部のメンバーはそのように考えています。皆さまとは、来年度の第5回「みんなの発表会」でお会いできますことを楽しみにしています。



ポスター会場の様子（昨年のもの）



ビデオ会議システムを用いた発表会の様子

今冬の但馬は雪が多かった。田野が白一色に覆われる夜は、沈黙考するにふさわしい。コロナに不安を抱えつつも、学生たちは修論にレポートに日々遅くまで取り組んでいる。

千里の目を窮めんと欲して 更に上る一層の楼
(王之涣「登鶴鵲樓」)

厳しい冬にたくわえた知識はきっと、春に千里を見極めるための確かな一歩となるはずだ。

(望鶴生) **RRM** column
No.22
兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科コラム

(※2021年3月1日現在の状況です)

前は非公開エリアにある様々なケージについて説明しましたが、今回は飼育しているコウノトリの中から「Lペア」について紹介します。

生い立ち

「Lペア」は繁殖ケージで飼育している2羽のコウノトリで、1998年にペアが成立しました。このペアのメスは、多摩動物公園で国内初となる飼育下繁殖により1988年に誕生した個体で32歳です。オスは、コウノトリ飼育場（現コウノトリの郷公園）で1989年に初めて誕生した個体で31歳です。飼育コウノトリの寿命は30歳前後であることから、おじいちゃんとおばあちゃんのペアと言えます。2020年も例年と変わりなく産卵しました。とても仲良しで、今でもお互いに羽繕いやクラッタリングをするなど、ほのぼのとした光景が見られます。



放鳥拠点での子育て



現在のLペアの様子



生まれたてのLペアのオス



Lペア初めての繁殖

子育て上手

「Lペア」は、これまでに多くの子孫を残し、コウノトリの野生復帰に大きく貢献してきました。放鳥方法の一つに、生息域を拡大したい地域に仮設ケージを設置し、飛べなくしたペアをそのケージで飼育しつつ繁殖させ、生まれたヒナが巣立ちとともに野外へ羽ばたいていくという方法があります。「Lペア」は不慣れなケージ環境下でもヒナを育て、これまでに5カ所の放鳥施設から計10羽のコウノトリを巣立たせました。



兵庫県立コウノトリの郷公園
主任飼育員

FUNAKOSHI Minoru
船越 稔

コラム

私が保護増殖センターの担当者となって成立させたペア第1号が「Lペア」です。ペアになってから20年以上の付き合いとなり、とても思い入れの深いコウノトリです。

今ではとても仲の良いペアですが、2002年の育雛期に突如オスがヒナに餌を与えなくなったことがあり、メスが怒り出して夫婦げんかを始めました。夫婦げんかといっても、コウノトリは本気でお互いを攻撃し、相手を殺そうとします。ペアの解消を避けるため、ケージの隣の飼育室にペア共通の敵となる別のオス個体を入れました。「Lペア」は侵入者に対して揃ってクラッタリングするなどワンチームとなり、夫婦げんかは1日で収まりました。翌年はメスの機嫌が悪くなることもありましたが、オスが我慢して大事には至りませんでした。

様々なことを成し遂げてくれた「Lペア」には、1日でも長生きしてほしいと願います。彼らと出会えたことを心から嬉しく思い、感謝しています。

「ふるさと兵庫 魅力発見！」

兵庫県内の中学生向けに配布されていた資料集「ふるさと兵庫 魅力発見！」を、県教育委員会が一般向けに販売を開始しました。兵庫五国の自然や産業、歴史・伝統などがまとめられており、各地域の特色だけでなく、兵庫県にゆかりのある人物なども紹介されています。

環境のテーマでは、「コウノトリと人との共生 ～絶滅からの復帰と共存の取り組み～」として、保護増殖の苦難を乗り越えて野生復帰を進め、「コウノトリの住みやすい環境」とは何かを考え、豊岡地域で官民学をあげて行ってきた取組などを紹介しています。

コウノトリ以外にも兵庫県にはたくさんの魅力がありますので、この機会にご覧になってみてはいかがでしょうか。

出版社：神戸新聞総合出版センター

価格：500円（税別）

県内の主な書店で購入できます。また、インターネット通販にも対応しています。



ふるさとひょうご寄附金で コウノトリ野生復帰プロジェクトを応援してください。

当園では全国の皆さまのご協力を得ながらコウノトリの保護増殖と野生復帰に取り組んできました。しかし、まだ道半ばの状態にあり、特に昨今では飛来地や繁殖地が全国的に拡大したことで、当園の技術的支援の必要性が高まっています。また、野外コウノトリの増加に伴い、救護個体の増加や近親婚の発生など新たな課題への対応や、遺伝的な多様性確保のための国内外の施設とのさらなる連携が重要となってきています。

これらの取組を進めていくためにも本プロジェクトへのご賛同・ご支援をお願いいたします。本プロジェクトの詳しい内容は、郷公園HPに掲載しています。



＜申し込み方法＞

1. ふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」による申し込み
2. 寄附申出書による申し込み



ふるさとチョイス



寄附申出書

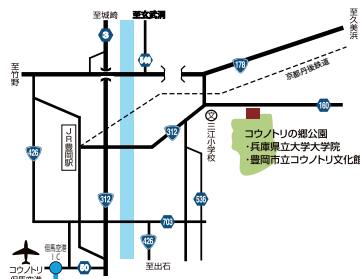
＜特典例＞

- ・郷公園情報誌「キコニアレター」の定期送付（寄附をした翌年度の3月まで）
- ・郷公園オリジナルグッズの進呈
- ・飼育コウノトリの命名権

ご不明な点がございましたら、郷公園までお気軽にお問い合わせください。

ACCESS !

- ◎神戸から【約2時間10分】
姫路から【約1時間45分】
最寄り 但馬空港 | Cから20分
- ◎JR山陰本線「豊岡駅」から約4.5km
全但バス(コウノトリの郷公園・法花寺・下の宮行き)
- ◎コウノトリ但馬空港から約12km



編集後記

この冬は12月から雪が積もり、昨春和歌山からやって来た私は豊岡の美しい雪景色を満喫しました。啓蟄を迎えても、まだ寒くなったり暖かくなったりの繰り返しですが、だんだんと春に近づいています。

春はコウノトリの繁殖期。巣作りをして産卵・子育てをする姿をご紹介する巣塔観察ガイドウォークを今シーズンも行う予定です。来園される際はぜひご参加ください。また、これらの時期、メジロやシジュウカラなどの小鳥が仲睦まじくペアで飛び回る姿も楽しめますよ。

(自然解説員 箸中彩夏)



兵庫県立コウノトリの郷公園
Hyogo Park of the Oriental White Stork

兵庫県豊岡市祥雲寺字二ヶ谷 128 tel : 0796-23-5666 fax : 0796-23-6538

開園時間：9：00～17：00
休園日：毎週月曜日
(休日に当たるときはその翌日)
12月28日～1月4日

e-mail : kounotori@stork.u-hyogo.ac.jp

ホームページ : http://www.stork.u-hyogo.ac.jp

facebook ページ : https://www.facebook.com/satokouen/



HP



FB